

2015年を迎えて

新しい年を迎えました。皆様が健康で飛躍の一年になりますことを祈念申し上げます。

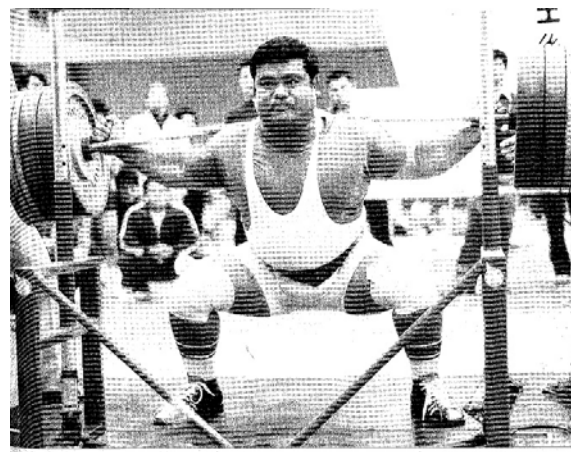
新年を迎えるといの一番に一年の目標設定が重要になりますが、皆さんは今年どのような目標を立てられますか？

2015年は、日本パワー界最大の目標であり、1972年協会創設以来の悲願であった国体参入が、いよいよ9月の和歌山国体で公開競技として実現します。年明けとともに全国各地で予選会、ブロック予選会と国内のパワー関係者の熱い息吹が秋の和歌山へと注がれます。

ここで若い皆さんのために、国体参入に至る現在までの経緯を、私の知る範囲でご紹介します。先ず国体に参入するためには、日本パワーリフティング協会が日本体育協会へ正式加盟を果たすことが条件でした。日本体育協会へ正式加盟するには、下部組織の都道府県協会が地元の体育協会へ加盟する必要がありました。その都道府県体育協会へ全国で最初に加盟を実現させたのが、今から34年前にさかのぼる1981年の沖縄県パワーリフティング協会でした。その後少しずつ全国各地で体協加盟が実現し、1994年に日本パワーリフティング協会は、念願の日本体育協会正式加盟を果たしました。それから4年後の1998年の神奈川国体からデモンストレーション競技として参入し、昨年長の崎国体まで16年間デモ競技として参加してきました。以上が今日までの簡単な経緯です。



写真左：左から比嘉氏と筆者



写真右：在りし日の中村さんのダイナミックなスクワット。パワースーツやニーラップが登場して間もない頃。

1981年に、全国に先駆けて県体協加盟を成し遂げるために日々奔走された沖縄県協会の重鎮、比嘉稔さん（那覇ジム会長、前沖縄県協会副会長）や、日本協会創設時の重量級を牽引された故中村昌栄さんの功績は多大で、両氏の最初の一步から実に34年を経てこの時を迎えられた事に、私達は感謝を忘れてはいけません。

残念ながら中村さんは1992年7月に46歳の若さで他界されました。以前生前の盟友の言葉を比嘉さんが私達に語ったことがあります。「(中村)昌栄は、国体参加が決まったら、自分は杖をついてでも出場したい!」と。仮に中村さんが元気で今年を迎えられても既に71歳、いくら何でも71歳では遅過ぎます。

その話を伺った時、私は中村先輩の思いを密かに引き継ぐ覚悟でいましたが、それにしても長い歳月を要しました。一昨年私は還暦に到達し、最悪なことに昨年は左股関節を故障しリハビリの日々、いろんな意味で国体出場は遠くイバラの道であり、重く険しいです。

和歌山国体へ向けて間もなく待ったなしの県予選、九州予選と選考会が始まりますが、今の私はまさに背水の陣。その気持ちは、生前中村さんが比嘉さんに語っていた“杖をついてでも出場したい!”その言葉に凝縮されています。



写真：1981年第11回世界選手権日本代表選手団。中村さんとは前年のアメリカ大会と合わせて2回、世界選手権をご一緒しました。(POWERSPORT マガジン2号より)

その現在のリハビリ状況ですが、昨年5月から週2回ペースで通い始めた通院治療も、昨年暮れで59回を数えました。一進一退を続けながらも少しずつですが、最近スクワットが以前の感覚で出来るようになってきています。また、以前は仰向けになって両膝を抱えた際、左股関節痛がブレーキになり両膝頭にかかなりのズレがありましたが、最近は大部均等に抱えられるようになってきました。しかし、まだ左足を台に乗せて普通に靴下は履けません。股関節に十分な体重をかけられないためです。でも、それも以前に比べれば大部改善されてきています。現在は、手技20~30分+高周波30分の1回60分前後の治療を週2回ペースで続けています。まだ先は長いですが、必ず完治させて完全カムバックを目指して今年もリハビリに励みます。

私は今年目標として国内は重要順に、(1)和歌山国体(2)全日本パワー(3)ジャパンクラシックマスターズパワー(4)全日本マスターズパワー(5)何か最低1つパワーの国際大会、以上の5つの大会出場を目指します。

(1)へ到達するまでには3月1日の県予選会、4月11日の福岡での九州ブロック最終予選会が控えています。(2)へは、先ず何処かで標準記録を獲らないといけません。元気な時は、ノーギアの大会でも問題なくクリア出来たのですが、満身創痍の今は無理な話です。(3)と(4)については、昨年標準をクリアしていますので一安心です。(5)は、(2)、(4)の結果次第ですが、(3)に付いては、昨年権利を取得していますので今年のワールドマスターズクラシックパワーも一考ですが、(2)に日程が限りなく近いので難しいかも知れません。などなど、いろいろ検討することが出来るだけでも故障を忘れ、幸せを感じます。

2015年は、少しでも不安を解消するためにあえて元旦からトレーニングを始動します。皆様も、ご自分の目標達成に向けて頑張ってください。

最後に、お正月はお雑煮とおせちが欠かせませんね。POWERSPORT合宿所では、おせちは出来合いの品を注文しますが、お雑煮は自前“男の手料理”です。掲載の写真は、私が作ったお雑煮です。知人の専門家に見せたら、袖の内側のへたの処理が不十分とか、厳しい批評もありましたがそこは男料理、多少のワイルド感も味のうちだと自己解釈しています。お雑煮は大好きで、お上品な小さなお椀では足りず、どんぶりにお餅を沢山入れて1月中食べています。



写真：お手製のお雑煮

私は、アメリカで活動中あまり料理は作らず、トレーニング後帰宅途中にある日本レストランに寄って食事をするのが常でした。こうして料理を作り始めたのは、合宿所で一人生活をするようになってからかも知れません。

時間に余裕があるときや来客時は、きちんとテーブルセティングをして食事をしますが、忙しいときは直接鍋から立ち食いもよくあります。

余談になりますが、もう40年近く前に以前東京のデザイン事務所に勤務していた際、家庭画報の料理の仕事を事務所が請け負っていて、佐伯義勝さんという当時有名なフード写真家とコラボで仕事をさせて頂きました。と言っても当時の私はまだ駆け出しの見習いデザイナーで、こま使いの傍らいろいろ勉強させてもらいました。暫くの間事務所の社長やスタッフと一緒に、定期的に世田谷にある佐伯さんのスタジオへ伺っていました。あの当時、お皿に盛った料理の湯気は写真を撮った後にリタッチして人工的に作り出すレベルの中で、佐伯さんの写真は、料理の温かい湯気までシャープに再現され、まるでその香りまでが漂ってくるようなリアル感のある素晴らしさでした。初めて佐伯さんのスタジオを訪ねた際度肝を抜かれたことは、レストラン並みのキッチンが併設され、そこで調理をして瞬時にシャッターが切れる環境がなされていたことでした。さらに地下室には、特注の食器棚があり実に多くのいかにも高価な食器がところ狭しと並んでいました。その時に私は、少しばかり盛りつけの極意を学ばせていただきました。

時々、レジェンドは普段何を食べているのかという素朴な質問をいただきます。これからおいしい男料理のレパトリーをご紹介しますと思います。

もう1枚の写真は、グラマーな AUSSIE ガールが見上げる前方に悠然と立ちほだかる CHANDON のボトル。先月のアジアオセクラシック・メルボルン大会からのお土産に頂戴した一品です。



写真:CHANDON のボトルとAUSSIEガールのメッセージカード

CHANDON の優雅さと AUSSIE ガールのグラマラスな BODY を立体感あるアングルで撮ってみました。

2015 年の元日はこの CHANDON を呑みほして、華々しく一年をスタートさせたいと思います！

皆様、今年もリフターズコラム頑張りますのでよろしくお願いします。

伊差川 浩之

Legend of Powerlifting